

奨励賞

なでしこ

「まめ・こめ 母さん」の地域で楽しくアンサンブル

～次世代へ引き継ぎたい地域の食農～



真砂保育園児と植栽ひまわり



真砂保育所での味噌仕込み体験

経緯

- 当地区は、市中心部より15km離れた山間地帯で、高齢化率は53%、耕作放棄地が増加している。
- この地区で昔から各家庭で造っていた味噌を復活させ、販売したのがきっかけで、保育園児や小中学生への農業体験や、景観作物植栽などで地域の元気作りをしようという思いから活動を開始。

取組内容

- 畦畔やほ場に桜の木やチューリップやひまわりを植栽し、景観づくり。
- 環境に配慮した栽培方法で農産物を生産、加工。真砂地区のブランドとして「地域ブランドラベル」を貼付して販売。
- 地域の園児や小中学生に味噌づくりや農作業体験の場を提供。
- 活動の様子をSNSで情報発信。

活動の効果

- ほ場の畦畔に、地域の子供たちと共に桜の木を移植し景観づくりを開始。ほ場には、チューリップやひまわりを植栽することで、地域住民の心を癒す景観になっている。
- 環境に配慮した農産物栽培を実践。栽培した大豆と米で味噌を製造、販売。真砂ブランドの定着が図られている。また、地域の園児や小中学生に農業体験を行い、食育につながっている。
- 活動の様子をSNSで情報発信しており、地域外から活動に参加する人もいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

中心メンバーである、自称「まめ・こめ 母さん」3人は、時には意見がぶつかり言い合いをしながらも、それ以上によく笑っています。活動は楽しく、地域の皆さんからの「頑張っとるね、無理せんようにね」などの声掛けが、何よりの励みです。

住所・電話番号・SNS等

住所：益田市下波田町 電話番号：0856-26-0123



おおだしょうこうかいぎしょ
大田商工会議所

グランプリ

～隠れた資源を磨き上げ域内消費拡大へGO！～



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者



あなご料理コンテスト入賞作品

経緯

- 全国トップクラスの漁獲量を誇る大田市産あなごだが、大半が県外に出荷され、市内での消費はゼロに近い状態だった。
- 地元産あなごは、他産地と比べ型も大きく旨味成分も高かったことから、市の活性化を目指し「大田の大あなご」の名称でブランド化の取組を始めた。

取組内容

- 観光DMOや行政、飲食店等を巻き込んだ協議会を立ち上げ、料理コンテストの開催や出前授業を通じて、大あなごの魅力を継続して発信した。
- 地元飲食店や加工業者には、大あなごの提供や商品開発を依頼した。
- ロゴマーク、パンフレット、幟、警察署の標語等のデザイン作成まで職員が知恵を出し合い、ほぼゼロ予算で取組む。

活動の効果

- 大あなごのブランド展開は、地元漁業者をはじめ仲卸、小売、飲食店、食品加工、旅館等の様々な業種に売上の増加をもたらしたほか、あなごの地産地消にもつながっている。
- 大あなごの認知度向上に従い、大あなごを活用した事業展開が、行政、警察署、学校等の機関へも普及しており、市全体で役立てられている。

応募団体からのアピール・メッセージ

更なる「大田の大あなご」の知名度向上を目指し、地域の魅力を体感できるコト消費メニュー等を整備していきます。ぜひ、旅の醍醐味である「食」を求め、旨味のある「大田の大あなご」を食べにきてください。

住所・電話番号・SNS等

住所：大田市大田町大田イ309-2 電話番号：0854-82-0765



か さ ぎ ま い

笠木 真衣

優秀賞

～うちのヒツジは空を飛ぶ！羊毛製品を世界へ～



糸車による糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

経緯

- 糸紡ぎを通じて羊毛繊維の素晴らしさに圧倒され、それを生み出すヒツジに強い興味を持った。
- 平成30年に三瓶山麓へ移住しヒツジの放牧を始めたが、自家産羊毛を活用できる方法は既存のものが全くなかった。
- ヒツジの飼育・毛刈りから製品企画、販売まですべての工程を一貫して自らで行う事業を始めた。

取組内容

- 原毛の洗浄法を研究し、羊毛と環境への負荷が少ない方法にしている。ヒツジの魅力を最大限に生かした製品を販売している。
- 年1回の毛刈りをイベントにして、近所の方と一緒に楽しく遊んでいる。製品をふるさと納税の返礼品としている。移住者向けの広報活動に参加している。
- ヒツジを田の周囲や休遊地に放し堆肥をつくり、出来たコメを「ひつじ米」として販売している。里山の景観維持にも寄与している。

活動の効果

- テキスタイルの品質・背景が高く評価され令和2年に全国コンテストでグランプリを受賞した。世界最大のファッション素材見本市の審査を通過しパリで出展した。海外ラグジュアリーブランドの各バイヤーから高い評価を得て商談を進めている。国内ではウールソックス・カーペットを販売し、売り上げが年々増加している。
- SNSを活用してヒツジや地域の様子・製品情報を継続的に発信した結果、イベント参加者や放牧風景を見に来る来訪者も増え、関係人口の増加に寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

ヒツジが好き、という思いでとにもかくにも活動してきました。いきなりやってきてよくわからないことを始めたにもかかわらず、温かく見守ってくださる地域の皆様に、特に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

住所・電話番号・SNS等

ホームページ：<https://non-non.farm/> Instagram：@kasagifiberstudio メール：info@k-f-s.jp

えーひだカンパニー株式会社

～比田を愛し、行動し、誇りに思える地域に～



地域ビジョンづくり



直売所えーひだ市場

経緯

- 人口減少による地域存続の危機感から、平成28年に住民アンケート、ワークショップを通じて88項目からなる10年後の目指すべき地域像「比田地域ビジョン」を策定。
- 地域ビジョンの具体化、持続可能な体制構築のため、平成28年8月に任意組織「えーひだカンパニー」を設立し、平成29年3月に法人化。

取組内容

- 水稻（主食、酒米）、小麦、そばなどを栽培し、令和4年度からは特産のどじょう養殖にもチャレンジ。ドローンやラジコン草刈機を導入し、育苗・防除・除草などの作業を受託し、農家をサポート。
- 地場産農産物を使用したパンや日本酒等の製造・販売、直売所やカフェの運営。
- 高齢者の買い物支援を行うため、移動販売車による訪問販売を実施。

活動の効果

- 法人が経営する農地は徐々に増え（令和5年度で4.9ha）、リタイヤする農家の農地の受け皿となっている。
- 地域資源をフル活用することと、地域内外から一緒にチャレンジしたい若者を加えながら、会員メンバーの得意分野を活かし、地域ビジョンの項目を実践しており、令和4年度時点で41個の戦略プランに取り組んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

経営理念として、住民自ら地域づくりを行う「自治機能」と、自治機能を発揮するために必要な財源を生み出す「生産機能」の発揮による地域ビジョンの実現を掲げ、行政任せやボランティアばかりに依存しない地域づくりを目指しています。

住所・電話番号・SNS等

住所: 安来市広瀬町梶福留1268 電話番号: 0854-26-4010 ホームページ: <https://e-hida.co.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/kyoumoEhida/> Instagram: https://www.instagram.com/ehida_ichiba/



かい

シバザクラの会

『今日もえーひだ』～シバザクラの里永田～



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」絶賛販売中！

経緯

- 永田集落は山間地域に位置し、急傾斜の法面面積は農地の3割を占め、高齢化が進む中、地域資源である農地を次世代に継承する上で欠かせない草刈り作業が最大の重荷となっていた。
- 草刈りの省力化を図るため平成26年度から始めた畦畔へのシバザクラ植栽の共同活動は、令和4年度には地域から離れて暮らす子や孫（他出子）も構成員に加えたシバザクラの会を設立し、都市間交流をより広域に展開。

取組内容

- 令和4年度までに、シバザクラ9万本、花桃500本を水田畦畔等12,000㎡に植栽。
- 開花シーズンには「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。県内外から多くの方が訪れる一大イベントを実施。
- 鳥取大学、島根大学と連携し、春のシバザクラ祭り、秋の植栽作業に合わせてインターンシップを受け入れ。
- ブランド米「シバザクラの里猿隠高原比田米®」を販売。

活動の効果

- 植栽活動は、畦畔草刈作業の省力化に加え、法面崩れによる土砂流入等災害防止効果も得ている。また、集落の女性を中心に、次世代の若者、他出子、ボランティア等が参加し地域の活力を高め、インターンシップをきっかけに定住者も現れた。
- 「猿隠高原シバザクラ祭り」は、県内外からの消費を呼び込み、関係人口の増加と地域の活性化に多大な効果を得るとともに、来場者からいただいた緑化協力金は、シバザクラの美観維持につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

シバザクラの植栽活動を通して地域を守り、次世代に自信を持って地域資源を継承していくため、『今日もえーひだ（比田or日だ）』をスローガンに掲げ、地域コミュニティを活性化させ、地域住民が「毎日がいい日だ」と思えるよう「日本で一番の里づくり」を目指します。活動に興味を持っていただけの方、シバザクラの植栽活動を体験してみたい方をお待ちしています。

住所・電話番号・SNS等

住所：安来市広瀬町東比田 電話番号：0854-34-0336 Facebook：猿隠高原シバザクラの里永田

にほん

じっこういいんかい

日本たまごかけごはんシンポジウム実行委員会

～TKG(たまごかけごはん)で町おこし～



たまごかけごはんを食べる吟味会会場



町並みを会場としたウォークラリー

経緯

- 市町村合併後に雲南市吉田町となったが、住民からは町が寂れてしまうとの声が聞かれた。
- 旧吉田村の時に、過疎化・雇用創設対策として設立した株式会社吉田ふるさと村を中心に、地域の農産品を活用した町おこしイベントを企画し、地域の活性化を目指すこととした。

取組内容

- 地域農産物の米・醤油・卵を活かすため「たまごかけごはん」をテーマとしたシンポジウム企画し、毎年10月最終日曜日に開催している。
- 全国規模のシンポジウムを開催することで、中山間地域の農業振興や農産品の消費拡大につなげる。
- 吉田町の魅力発信や島根県の知名度アップにつなげる。

活動の効果

- 「日本たまごかけごはんシンポジウム」は、全国から吉田町にTKGファン約1,000人が集まるイベントに成長した。当地の美味しい米、製造にこだわった醤油、近隣市町を巻き込んだ卵の消費が拡大したことで、地域産業の振興に貢献できている。
- 当地は、日本古来の製鉄技術「たたら製鉄」で栄えた街並みや遺構が現存しており、その町並みの中でシンポジウムを開催することで、吉田町の魅力発信ができたことや島根県の知名度アップに貢献できている。

応募団体からのアピール・メッセージ

全国的なTKGブームの火付け役となったこのシンポジウムは、コロナ禍でも形を変えながら18年間継続して開催しています。これからも実行委員会メンバーを中心に過疎の進む吉田町に「賑わいと元気を起こす」ため取組みを進めます。

住所・電話番号・SNS等

事務局：株式会社吉田ふるさと村 住所：雲南市吉田町吉田1047-2

たけざきほんごうしゅうらくきょうてい

竹崎本郷集落協定

～ライトアップ！星空！田舎でしょ！～



農業体験(田植え作業)



秋の棚田風景

経緯

- 当地は、1,400年前から「たたら操業」が行われており、中山間地域等直接支払制度の協定内には「追谷棚田」があり、つなぐ棚田遺産に認定されている。
- 棚田は県外からの視察者の提案もあり、ライトアップ事業として「灯」をテーマとしたアートイベントを開始した。

取組内容

- 砂鉄採掘の「鉄穴(かな)流し」跡地にできた棚田を活用したライトアップイベントを開催し、SNS等で情報発信する。
- 棚田を活用した農業体験(田植え、稲刈り)や、収穫した棚田米はインターネット等で販売している。
- 外部団体と連携し、古民家の改修を進めており、将来的には農泊事業に発展させる。

活動の効果

- 棚田が一望できる展望台を整備したことで、昼夜を問わず来訪者の目を楽しませることができており、コロナ禍でも奥出雲町への集客増加に貢献できている。
- 農業体験の受入れにより交流人口が増加。「源流にた米こしひかり」として販売する棚田米は年間9トンの実績を維持し、農家収入の確保に貢献している。
- コロナ禍でも打ち上げ花火を新しく企画するなど、地域からも好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

棚田を含めた自然豊かな景観や夜空には溢れるほどの星空など、都会にはない何かがある奥出雲町にはあります。これからも美しい景観や農村・農業を次世代につなぐため、地域一体となり協力体制を維持し、様々な取組を進めていきます。

住所・電話番号・SNS等

窓口：奥出雲町農業振興課 住所：仁多郡奥出雲町竹崎 電話番号：0854-52-2679

奨励賞

のうじくみあいほうじん

いしはらさとだ

農事組合法人 石原里田

～奥出雲町の当たり前は当たり前じゃない～



一般参加の田植え体験(令和4年)



農泊(令和2年)

経緯

- 集落内の空き家所有の耕作放棄の増加や米価下落による営農組合活動継続への先行き不安から集落消滅の危機感があった。
- 営農組合を法人化し、経営基盤の強化を図るとともに、地域活性化や後継者育成のため、幅広い体験活動等を展開し、関係人口増加の取組を始めた。

取組内容

- 自治会を単位とした農事組合法人を中心に地域での話し合いを進め、守るべき農地を保全する取組を進めている。
- 食育体験活動やイベントを町内外に情報発信することで、関係人口の増加を図る取組を進めている。
- 地域が日本農業遺産に認定されたため、古民家を活用した農泊事業の取組を展開している。

活動の効果

- 任意組合を法人化したことや地域の話し合いにより守るべき農地を定めたことで、地域内の連帯意識が高まり、水稻以外の作物も積極的に取組むことができた。
- 地域内外を含めた食育活動・情報発信により、関係人口増加につながっている。
- 日本農業遺産に認定された棚田の古民家を活用した農泊事業に取組んだことで、宿泊者の感想などから、奥出雲町の良さを地域住民が再認識できた。

応募団体からのアピール・メッセージ

近年ではコウノトリも舞いおるほど自然や生態系の豊かな奥出雲町。当地域の「いわけ」棚田は「つなぐ棚田遺産認定」に認定されています。これからも「ご縁」を大切にしながら、棚田の古民家を活用した農泊や新しいイベント企画に取組んでいきます。

住所・電話番号・SNS等

住所: 仁多郡奥出雲町三所638 電話番号: 0854-54-0968

こうぼう いしばしえっこ

しまねおおなんチーズ工房（石橋悦子）

～ひとつひとつ手作りしたこだわりチーズ～



しまねおおなんチーズ工房の外観



こだわりのstringチーズ製造中

経緯

- 親会社の倒産に伴いチーズ工房を閉鎖。
- チーズの製造できる環境・施設はそのまま残っており、「もう一度作れないか」という思いが募った。
- 元上司と工房の土地所有者、生乳の供給牧場と話し合いを重ね、その協力を得て一念発起した。

取組内容

- 生乳は供給牧場の搾りたてを使用し、その日のうちに加工。現在、8種類のチーズを製造し、新商品の開発も進めている。
- 商品は直売所・道の駅、スーパーや飲食店などへ販売。店頭での試食販売や県内外のイベントに参加し、ファン拡大に取り組む。
- 農林水産省の「牛乳でスマイルプロジェクト」に参加。乳製品の消費拡大にも取り組む。

活動の効果

- 店頭での試食販売やイベント参加を通じて取扱店舗も増え、県内外からの問合せや来訪者も増加しており、地元のおいしい牛乳を使った商品をより多くの人に提供している。
- チーズ工房を再開したことで、微力ながらも地域活性化や乳製品の消費拡大などに貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

添加物等は一切使用せず、日々変化する天気や気温に合わせ、PH値や温度など刻一刻と変化する生乳の状態を正しく見極め調整し、徹底した製造工程管理の元、一つ一つ手作業により、こだわりのチーズへ仕上げています。

住所・電話番号・SNS等

住所: 邑智郡邑南町山田75-1 電話番号: 0855-83-0007 ホームページ: <https://www.ohnan-cheese.com/>

～うまい魚は漁師がつくる～



テレビ放送と海中での処理の様子



小学校での講義風景

経緯

- 国産の魚の減少や日々の素潜り漁で海中の変化を感じ取り、資源管理ができる魚突き漁こそが究極の漁法であると思い立ち、魚突き漁師として活動を始めた。
- 乱獲し大量廃棄するのではなく「質に特化し、美味しい魚を消費者へ」をモットーとしている。

取組内容

- 消費者に「質の良い魚」を届けるため、独自に研究を重ね、離島からの輸送ハンディを解消するための取組を進める。
- 魚突き漁をすることで、資源保護につなげていく。
- 魚突き漁の認知度を向上させるため、小学校での授業への参加やメディアを通じたPR活動に取り組んでいる。

活動の効果

- 魚の品質を維持・向上させるため独自に研究を重ねた結果、「熟成」に向けた魚をつくることができた。これにより通常の3～4倍も長持ちし、魚の「旨味」を最大限に引き出すことに成功したほか、離島からの輸送ハンディを克服できた。
- メディアをとおしたPRのほか自ら販路拡大に取り組んだことで、魚突きの魚の品質が高いことが認められ高値で販売できたうえ、資源保護にもつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

海士町でただ一人の魚突き漁ですが、「量より質」に特化し、これからもうまい魚を離島から日本各地や世界各国へ提供できる漁師を目指し、取組を進めていきます。

住所・電話番号・SNS等

住所：隠岐郡海士町御波798-4 電話番号：080-3844-6411